

# —子どもの笑顔が、待っています— ぼくらの家事・育児「新時代」



権 英直 (ツワガキ ヒデオ) さん

広告会社の営業職として勤務しながら、3児の父として積極的に家事育児に参加。自らの経験をもとに、ファザーリング・ジャパン関西の立ち上げに関わり、現在は関西料理チーム主任、第6期豊中市男女共同参画推進委員会市民委員を務める。豊中市在住。

## 最初完璧をめざしたけれど失敗も



理事長

とても積極的に家事育児に取り組んでおられると聞きましたが、何かきっかけはあったのでしょうか。

妻とは共働きで、家事を分担していました。元々料理が好きで、子どもが生まれたとき、経済的にもお弁当がいいという感じで自然に作るようになりました。実は子どもはあまり好きではありませんでした。皆が携帯の待受に自分の子どもの写真を設定しているのを冷ややかに見ていたタイプです。仕事人間で、仕事と酒の生き方が楽しいと思っていたんです。いざ長男が生まれたら「なんてかわいいんだ!」となって、生き方を見直しました。

いろいろご苦労や失敗などもあったと思うのですが。

最初は仕事と同じで完璧主義。手作りの料理や掃除片付けをきちんとやらないと気がすまない。長男が2歳の一歩やんちゃなときです。毎朝気持よくスタートしたいのに、おもちゃを散らかすんですね。腹が立って、片付けなければ全部捨てると長男のおもちゃを捨てました。僕の母親がそれを知って、泣きながら、めっちゃくちゃ怒るんです。「あなたは子どものことを何もわかってない」。完璧にやるのは自分の都合ですよ。子どもは、大人と違って混沌の中で成長していく。今は3人子どもがいて、父親としても

固定的な性別役割分担の解消を進めるうえで、男性の家事育児への参加は重要な課題の一つです。男女共同参画週間事業で講師の野々村友紀子さんから、「ババになった旦那」に対する「ママの本音」をお聞きしました(講演会報告は4頁)。今回は権さんから「ババの本音」や、男性がもっと家事育児に参加していくための課題などについて、お話を伺いました。

12年目。だいぶ変わりました。完璧にするってこだわりは、周りにプレッシャーを与えるだけだと気が付きました。

日本では家事時間の男女差が極めて大きい。一日当たりの家事時間は男性1時間23分、女性7時間34分ですが、権さんの一日の家事時間は、おおよそどのようなものですか。

平日は3時間30分くらいですね。朝は6時前に起きて、朝ごはんとお弁当を作る。布団を畳んで、保育園に送って、夜はお風呂。

そんなババをママやお子さんたちはどう思っているのか、事前に書いて頂きました。どうですか。

権さんちのババは何点?

妻: 100点

子: 99点(長男)・90点(長女)

「おいしいごはん!」(ママ)  
「阪神の試合につれてってくれる!」(子)



ありがとう、という感じです。子どもとは休みの日はずっと一緒にいて、遊んできたので、信頼関係ができています。ただ、阪神ファンで、野球観戦しているとつい熱くなって声が大きくなったりして、怖がられちゃいます。

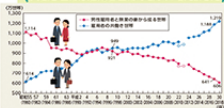
## 子育てで自分の成長を実感した

子育てのなかで、権さんの生活や意識に何か変化はありましたか。

子どもを育てながら、僕も育ててもらっている感じです。他人への寛容度が広くなりました。独身のときは部下や同僚のミスを許せないこともありました。子どもといると、これは個性だとわかってくる。だから部下にもごちゃごちゃ言わなくなりました。とにかく忙しいので、時間の使い方はうまくありません。一日の取組みを考える習慣がつかえました。人間関係も広くなります。NPOの活動を始めたこともあります。子育てを通じて出会った人がたくさんいます。子ども会の班長、地域のお祭りに参加したりと、視野が広がりました。

共働きが当たり前になってきて、男性の育児に対する意識もかなり変わってきた気がします。様さんは今の若い子育て世代をどのように見ておられますか。

#### 共働き世帯は雇用者世帯の2/3に増えました



共働き世帯の増加グラフ (男女共同参画白書・令和元年版)

僕に長男が産まれたときと違って、働き方改革と言われるように、社会は変わってきています。若い世代は会社ですべてじゃないわけです。友達や絆を大切にしている柔軟ですね。でも社会は、柔軟性や多様性への理解がまだまだ少ないから、子どもができたから働き方を変えよう、転職しようというのは難しい。いろんな生き方のロールモデルができてくれば、もっと変わって思っています。

若い世代の意識が変わったとしても、制度や仕組みなど、社会が変わらないと状況は改善されませんね。豊中市では、昨年市長の長内さんがイクボス宣言をされましたが、組織のトップの姿勢も大事です。

## 笑ってる父親を増やそう

ところで、様さんは「NPO法人ファザーリング・ジャパン関西」に参加しておられます。参加されたきっかけや、活動内容を教えてください。

たまたま書店で出会った本でファザーリング・ジャパンを知りました。入会したら面白い人が多い。「父親を楽しまないでだめだ。笑ってる父親を増やそう」なんです。そこから関西支部の立ち上げに携わりました。イクメン講座などがありますが、シンプルなものだと、絵本よみです。男性が読んだほうが面白い本ってたくさんあるんです。男性が怪獣の絵本なんか読むと、めちゃくちゃ盛り上がる。たったそれだけのことで人気者になれるし、子どものリアクションがある。他には、父子キャンプを毎年企画して、知り合ったパパを誘います。

パパはたいてい自然やバーベキューが好きだし、キャンプではパパしかいないから子どもとの会話も増えます。ママには「一人の時間」をプレゼントです。



毎年20組程度の父子が参加しています

## 新時代のパパたちへ

すてっぶを拠点に、豊中のパパたちのつながる機会をもっと増えればと思っています。

パパはシャイなので、無理してつながろうとしても続きません。無理せずゆるやかな、と思います。地域で一度集ってみようとか、保育所の情報交換とか、小さなつながりから始めるのがいいと思います。



理事長

最後に、新しい時代のパパたちへメッセージをお願いします。

人生100年時代や年金問題など、先行き不透明な時代です。でもパパになることは、人生の一大転換期。家族ができて子どもができると、新しい世界が開きます。すごく苦勞も悩みもあるけれど、それを上回る子どもの笑顔が待っています。